

第2課 ヨセフの夢(創37:1-11)

10 ヨセフが父や兄たちに話すと、父は彼を叱って言った。「いったい何なのだ、おまえの見
た夢は。私や、おまえの母さん、兄さんたちが、おまえのところに進み出て、地に伏し
ておまえを拜むというのか。」

11 兄たちは彼をねたんだが、父はこのことを心にとどめていた。

今日の本文はよく知られ、人気があるだけに誤解も多い個所です。ヨセフの夢の話は、
今日を生きる私たちと次世代のビジョンと夢を煽り、夢とビジョンを忘れずに一生懸命
前進するなら、どんな難しい環境に置かれても、結局は、その夢が必ず成就するとい
う内容の話ではなく、むしろそれとは正反対に、私たちが無駄に抱いて夢見ている夢は、
たたき壊されて、神の契約と計画だけが成就するようになっているということです。

本文2節を見ると、「これはヤコブの歴史である」という言葉が始まりますが、実際にそれ
以降の内容を見ると、ヤコブの話ではなく、ヨセフの物語が出ています。これがヨセフの
夢の物語を解く重要な鍵となります。

なぜ聖書がヤコブの話をすると言っておいて、ヨセフの物語を長く並べるのでしょ
うか。それは、ヤコブに与えられた契約と祝福が、彼の子孫であるヨセフに成されているこ
とを示しています。それで「ヤコブの歴史である」としながらヨセフの話を述べているの
です。

それが本当にそうであるかどうかを見るために、ヤコブが彼の父イサクから受けた祝福の
内容を見てみましょう。

創世記27:28-29

28 神がおまえに天の露と地の肥沃、豊かな穀物と新しいぶどう酒を与えてくださるよう
に。

29 諸国の民がおまえに仕え、もろもろの国民がおまえを伏し拝むように。おまえは兄弟
たちの主となり、おまえの母の子がおまえを伏し拝むように。おまえを呪う者がのろわ
れ、おまえを祝福する者が祝福されるように。」

これはヤコブが彼の父イサクから受けた祝福の内容ですが、実際には神から受けた祝福
です。ところが、この祝福がヨセフの人生で成就します。29節を見ると、「おまえは兄弟
たちの主となり」と言います。ヤコブの兄弟とはエサウ一人しかいないのになぜ「兄弟た
ち」という複数形で書いているのでしょうか。その祝福はヤコブに成就するのではないこ
とをはっきりと示しているのです。

そうした神様の祝福の契約の内容が、ヨセフの夢を通して分かりやすい絵で、もう一度繰
り返されているのです。

創世記37:5-9

5 さて、ヨセフは夢を見て、それを兄たちに告げた。すると彼らは、ますます彼を憎むよう
になった。

6 ヨセフは彼らに言った。「私が見たこの夢について聞いてください。

7 見ると、私たちは畑で束を作っていました。すると突然、私の束が起き上がり、まっ
すぐに立ちました。そしてなんと、兄さんたちの束が周りに来て、私の束を伏し拝んだ
のです。」

8 兄たちは彼に言った。「おまえが私たちを治める王になるというのか。私たちを支配す
るというのか。」彼らは、夢や彼のことばのことで、ますます彼を憎むようになった。

9 再びヨセフは別の夢を見て、それを兄たちに話した。彼は、「また夢を見ました。見ると、太陽と月と十一の星が私を伏し拝んでいました」と言った。

今この内容は、ヨセフが世界福音化の契約を固く握って切実に慕い求めて祈ったところ、神様が夢で確認させていただきただけというのではなく、「おまえが兄弟たちの主となり、あなたの母の子がおまえを伏し拝むように」というヤコブが受けた祝福の内容です。彼の子孫であるヨセフの夢を通して再び思い出させてくださっているだけです。それで、11節で「父はこのことを心にとどめていた」と言っているのです。だからといって、この祝福がヨセフの時に完全に成就されるわけでもありません。ヨセフがエジプトの総理になったとき、兄弟たちはヨセフにひれ伏しますが、それはただの過程としての成就に過ぎません。なぜなら、その契約は後になって、別の人に伝えられるからです。創世記49章に行くと、ヤコブがユダに言う遺言にその内容がそのまま繰り返されます。

創世記49:8-10

8 ユダよ、兄弟たちはおまえをたたえる。おまえの手は敵の首の上であり、おまえの父の子らはおまえを伏し拝む。

9 ユダは獅子の子。わが子よ、おまえは獲物によって成長する。雄獅子のように、雌獅子のように、うずくまり、身を伏せる。だれがこれを起こせるだろうか。

10 王権はユダを離れず、王笏はその足の間を離れない。ついには彼がシロに来て、諸国の民は彼に従う。

ここを見ると、ヤコブが受けた祝福の内容とヨセフの夢の内容がそのまま繰り返され、記録されています。重要なのは10節に「シロ」という人物が出てくるのですが、これは

「メシア」を意味します。シロであるイエス・キリストが来られれば、すべての民がその方
に服従するようになるということです。ですから、ヤコブが受けた祝福とヨセフの夢は、
実はヤコブのものでもなく、ヨセフのものでもなかったのです。ユダの子孫として来られる
メシア、イエス・キリストに関する預言だったのです。

このように、旧約聖書における神様の契約は、契約当事者に完全に成し遂げられるので
はなく、彼の子孫にしばらく成就するように見えて、再びその子孫に引き渡されることにな
り、結局、その子孫の最後には、真の約束の子孫であるイエス・キリストが立っている
のです。旧約の約束に登場する子孫の実体はまさにイエス・キリストです。それで旧約
聖書を「昔の約束」つまり、来られるメシアに関する約束だと言うのです。

ガラテヤ3章16節

約束は、アブラハムとその子孫に告げられました。神は、「子孫たちに」と言って多数を指
すことなく、一人を指して「あなたの子孫に」と言っておられます。そ
れはキリストのことです。